

- 目に入った場合には、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛み又は外観に変化のあるときは、医師の診察を受けて下さい。

 **警告**
●臓器の障害

 **容器**
キャップ

株式会社 アサヒペン
大阪市鶴見区鶴見4-1-12
<http://www.asahipen.jp>

お客様相談室
☎ 06-6934-0300

日本製 00-1106



上塗り塗料の
密着性・耐久性を高める

水性シーラー

水性塗料用下塗り剤

屋内外のコンクリート・モルタル・ブロック・スレートなどの下塗りに (ガレージや倉庫の床面、かわら・スレート屋根を除く)

1L

(社)日本塗料工業会登録
登録番号 A02124
ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆
問合せ先 <http://www.tonyo.or.jp>
建築基準法で定められたホルムアルデヒドの放散量が最も少ない区分で、居室内に無制限に塗布できます。



標準塗り面積
(1回塗り)
5~10m²
タタミ3~6枚分

乾燥時間
夏期/30分~1時間
冬期/ 2~3時間

塗り重ね時間の目安
夏期/2時間以上
冬期/6時間以上
(吸い込みの大きい場合は1日以上)



注意書きをよく読んでから使用して下さい。



上塗り塗料の
密着性・耐久性を高める

水性シーラー

屋内外のコンクリート・モルタル・ブロック・スレートなどの下塗りに (ガレージや倉庫の床面、かわら・スレート屋根を除く)

水性塗料用下塗り剤

1L

商品名	水性シーラー
品名	合成樹脂塗料(水系)
成分	合成樹脂(アクリル)、顔料、水
色名	ライトレモン
用途	屋内外のコンクリート・モルタル・スレートなどに水性塗料を塗る場合の下塗り用。(ただし、コンクリート床用塗料の下塗りに は適しません)

絶えず水がかかったり水につかることや、いつも湿っているところ、ガレージや、倉庫の床面、かわら・スレート屋根には適しません。

塗装方法

- ① 塗る面のゴミ、油分、カビ、サビ、はがれがあった古い塗膜を取り除きます。
- ② 塗料がついては困るところは、あらかじめマスキングテープなどでおおっておきます。
- ③ 塗料は、キャップをあける前に、容器を逆さにして、十分振り動かし均一にします。
- 塗料をローラートレイやペイントベルに移します。
- ④ コーナーや塗りにくいところは、先にすじかいバケで塗ります。広いところは、ローラーバケを使うと速く、楽に塗ることができます。
- ⑤ マスキングテープは、塗料が手につかなくなったらがします。

用具の手入れ方法

- 塗料が乾かないうちに、水が湯で洗って下さい。

保管上の注意

- ① 幼児の手が届かないところに保存し、子供が誤飲・誤食・いたずらをしないように注意して下さい。
- ② 残った塗料は、固くキャップをして、直射日光や-5℃以下の場所を避けて保存して下さい。

取扱い上の注意

1. 表示の用途以外には使用しないで下さい。
2. 目に入ったり、皮膚に付着しないよう、また誤飲しないよう注意して取扱って下さい。
3. 塗装中、乾燥中とも換気をよくし、その後も塗料の臭いなくなるまでは、ときどき換気をして下さい。
4. 塗料がついて支障がない服装で作業して下さい。
5. 天気がよく、湿度の低い日に塗って下さい。
6. 塗るときおよび塗った塗料が乾くまでの間も、5℃以下にならないような時間に塗って下さい。
7. うすめずそのまま塗って下さい。
8. つるつるした面は、サンドペーパーやワイヤーブラシで表面を荒してから塗って下さい。
9. 本品は鉄部には適しません。鉄部を塗装する場合の下塗りには、水性サビドメ塗料を使用して下さい。
10. さわった場合手に粉がついたり、ボロボロと砂がとれるような下地には適しません。この場合はアサヒペン油性シーラーを使用して下さい。
11. 吸い込みが大きい場合は、乾いてから繰り返し塗り重ねるとよりよい効果が得られます。
12. 表示の色・ツヤは乾燥後の色・ツヤと多少異なることがあります。
13. 新しいコンクリートやモルタル面に塗る場合は、施工後3週間以上経ってからアサヒペン油性シーラーを塗ってください。
14. 本品は下塗り用です。必ず上塗りをして下さい。
15. 塗り重ねるときや上塗りするときは、夏期2週間以上、冬期は6週間以上(吸い込みの大きい場合は1日以上)乾かしてから塗って下さい。
16. 塗り面積・乾燥時間は、素材・塗り方・気象条件などにより多少異なります。特に塗り面積は、表面状態や吸い込みの違いにより大きく変わります。
17. 容器は塗料を使い切ってから捨てて下さい。
18. やむをえず塗料を捨てるときは、水性塗料用固化剤で固化するか、新聞紙などに塗り広げ、乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。